

白井 青海

所属大学：佐賀大学 農学研究科 生物資源科学専攻

県内インターンシップ先：一般社団法人ジャパン・

コスメティック・センター

留学先：ネゴンボ（スリランカ）

留学期間：2016/10/17～2017/3/11（4年次）

受入機関名：スリランカ伝統植物研究所



活動概要と成果

アルピオンのスリランカ伝統植物研究所にて、薬草の栽培を試みたり、日本での機能性評価実験のための植物の抽出実験を行ったりした。また、薬草マーケットに行き、更に、研究所の近くの大学をアルピオンの社員と共に訪問し、連携協定に向けての協議を行い、最終的に、佐賀大学-アルピオン-現地大学(ワイヤンバ大学)-現地企業(Ton Ton Lanka)の、連携協定を締結することができた。これにより、今後修士課程でより円滑に研究を進めていくことができるようになった。

日本発信プロジェクト活動概要と成果

○Japanese fair での日本発信

ー実行したこと

コロンボという都市で開かれた Japanese fair に主催者側の一員として参加し、会場での細かいサポートを行った他、来場した現地の人々と、日本での生活や日本の文化など、日本について様々なことを写真を見せながらお話しした。

ー成果・気づいたこと

スリランカに日本人の女の子がいるのは珍しいようで、みんな興味津々に私のところに近づいて来てくれて、私の話を熱心に聞いてくれたり、たくさん質問してきてくれた。そうして近い距離で一対一で話すことで、最初は不安そうな顔で近づいて来た人も次第に笑顔になり、以前よりももっと日本を好きになった、興味を持ったと言ってくれる人もいた。私のスリランカ滞在期間は短く、またスケジュールもタイトだったため、私自身が何かイベントを企画したりはできなかったが、こうして普段日本人と接する機会の少ない現地の人たちと、一対一で親身に話をすることで、表面的なものではなく、日本人の考え方や思い等といったもっと内部の深いことを伝えられたので

はないかと思う。

留学中及び帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと

スリランカは途上国であるため、やはり日本と比べると何かと不便が多かった。水道の水が必ずしも安全ではないこと、運転が荒く交通事故が多発していること、トイレや食事などの場面で不衛生だと思ふことが多いこと、仕事上の約束を守らない人が多いこと。数え上げたらきりが無いほど、明らかに日本では考えられないようなことだらけの土地で暮らすことで、多少のことでは動じず、物事に臨機応変に対処する強い精神を身につけることができた。特に、私の価値観を大きく揺るがす一つの出来事が留学中に起こった。研究所の屋根の工事が急に始まり、それと同時に雨季に入り雨が降ることが多くなったが、工事をしている人達は雨が降ると仕事はしないと、屋根にビニールシートを被せないまま仕事を中断してしまった。それにより研究所内には大量の雨水が降りこみ、家具や機材が濡れ、研究が中断してしまった。この出来後から、自分とは全く異なる価値観や考え方をもつ人を、以前よりも素直に受け入れ、相手の立場に寄り添って物事を考えられるようになった。

あなたにとっての留学の価値

私は、留学によって経験できることは、大きく分けて三つあると思う。一つ目に、多様な価値観・考え方を持つ人と出会えること。二つ目に、現地で、現地の人と直接会って話ができること。三つ目に、現地の人と同じような生活をする事。これらの三つは、私に大きな衝撃を与え、私の価値観を大きく変化させた。留学の価値は、この価値観の変化にあると思う。私たちは、メディアやインターネットを通して世界中の大部分の情報を手に入れることができる。私も、渡航前にスリランカについて色々調べて行ったが、インターネット上で得た情報と、実際にスリランカで見て、聞いて、感じたことは全く違うものだった。人は一人ひとり考え方や感じ方が違うからこそ、例え行先が同じでも、留学によって体験し、得るものは一人ひとり違うはずである。そこに留学の価値があると思う。